



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな未来をめざして



「宇宙の草原」 つゆはし作業所 永田 一雄さん ※紹介が11ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 4.9 職員集会開催 P4～6
- ▶ 2022年度 正規採用職員紹介 P7～9
- ▶ 新規事業「まーぶる」スタート P12

2022年5月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

シリーズ 私たちの実践
 ～障害のある人の『働く』を支える～

第1回 ワークセンターフレンズ星崎

「就労移行支援の実践」②



【事業と定員】

生活介護	15名
就労継続支援 B型	15名
就労移行支援	6名
就労定着支援	

はじめに

前回の4月号では、就労移行支援事業の主な機能として、アセスメントや職業準備性の向上の支援について報告しました。今回は就職後の取り組みと、2名の利用者に入社を促すための変化について報告します。

■就職したあとの支援

フレンズ星崎では、就職が決まると「就職者を祝う会」を開催して、その門出をみんなで祝福します。就職は大きな節目ですがゴールではありません。私たちのかわりは途切れることなく、職場へ

の定着や就業生活の継続のための支援へと続きます。職場や居宅を繰り返し訪問したりして、本人や企業の相談にのりながら必要な関係調整を行っていきます。

また、個別の支援だけでなく「就職者のつどい」という交流会を定期的に開催して集団づくりをすすめています。就職した卒業生と、就職を目指している利用者が、それぞれ近況を報告したり、野球観戦やボーリング大会などの企画で親睦を深めます。卒業生からは「はじめにボーンラスをもらってうれしかった」「職場で先輩が入ってきた仕事を教えています」「仕事で必要な資格を取得しました」な

ど色々な報告があります。卒業生には一緒に就職を目指して頑張った仲間と楽しく交流して励ましあったりする場であり、就職を目指す利用者にとっては先輩からの刺激を受け、就職の意欲を高めていく場になります。

この2年間はコロナ禍により、つどいや祝う会も開催を見合わせる事が多く、こうした交流の場の必要性を改めて強く感じています。

■不安な気持ちに寄り添って

Aさん(20代女性)は元々飲食店で働いていましたが、業務負担

の増加や対人関係の悩みが影響して体調を崩し、うつ病と診断されました。その後、勤務していた店舗が閉店となったことに伴い、新たに仕事を探す中「障害者枠での採用も視野に入りたい」と考えられ、就労移行を利用することになりました。

これまでの体験や本来持っている気質もあってか「あんなふうに言ってしまったってよかったのかな?」「迷惑をかけていないかな?」など色々なことで不安になるAさん。そんな彼女と関わる中で「一番意識しているのは「とにかく話を聞く」ということです。利用を開始される前、大手就労移行支援事業所とフレンズ星崎のどちらに行か1ヶ月くらい悩んでいたAさんですが、その際も本人の不安な気持ちや悩みについて十分時間をとって話を伺いました。1時間を超える面談も何度もあったと思います。

事務職での就業を希望されるA

さんには、データ入力やパソコン

の資格取得が目指せるプログラムを新たに用意したり、内線電話の対応や書類のコピー、ラベルシールの作成など希望の職種を想定して様々な役割を担っていただくようにしました。訓練で自信をつけ、パソコンの代表的な資格であるMOSの認定試験を受験することにもなりました。何気ない会話の中で職員も一緒に試験を受けることになり、猛勉強の末、無事二人ともほぼ満点に近い得点で合格することができました。

Aさんには、高校時代の就職活動で面接がうまくいかなかったことから、面接に対してトラウマがありました。しかし先日、事前に取り組んでいた面接練習の成果もあり、見事採用面接を通過し、「これで面接への苦手意識は消えたと思います」と笑顔で報告がありました。「フレンズを選んでよかったと思いますか?」とお伺いすると、「間違いないよかったです」と笑顔で答えてくれたAさんです。

■成長は少しずつ

Bさんは軽度知的障害のある20代の男性です。中学校卒業後、進学や就労はせず、9年間在宅での日々を送っていましたが、ご家族からの後押しもあり、企業就職を目指すために訪ねて来られました。初めてお会いした時は、色々質問しても同席されていたお母様に耳打ちをして答えられ、結局その日は目を合わせる事ができなかったBさんでした。

利用開始後は、DMのセッティング作業や給食の配膳、食器洗い、消耗品の補充、トイレや食堂の清掃など、様々な仕事に取り組みいただきました。取り組みの中では、直前までできていた手順も突然忘れていたり、次に何をするか分からなくなっても相談ができるか分からない様子が見られていました。そんな彼に対し、時には職員がマンツーマンで逐一アドバイスをしたり、理解力に合わせた手順書を作成したり、その時々状況や段階に応じて少し頑張れば

できる作業内容や目標の設定、環境づくりを心がけていきました。それまでできなかったことが少しずつかけや声かけで突然できるようにはなりません。働く力を伸ばしていく過程もトレーニングが必要でした。

Bさんも日々の地道な積み重ねの結果、少しずつできることが増えていきました。最終的には自立して取り組める仕事も増え、他の利用者さんに仕事を教えることもできるようになり、先日、実習をしていた企業への就職が決まったBさん。はじめは目を合わせることも会話することもできなかった彼でしたが、気づけば「彼なら大丈夫」と安心して送り出すことができるようになっていきます。

■今後に向けて

フレンズ星崎の就労移行支援事業は、今年で10年の節目を迎えます。次の10年を見据え、これから勇気をもって就職を目指すそうとされる方々に「ここで頑

張ってみたい」と思っていただけのような魅力ある事業所であるよう、常に支援の質の向上を図っていきたいと思います。そのためには、事業所や法人の中だけに留まらず、外部での様々な取り組みや事例から学び、つながりや取り組みの輪を拡げていくことが必要です。これからも職務を通じて、多くの方々の人生にゆたかさを加えていけるような仕事をしていければと思います。

就労支援員 荒木雄太



3年ぶりの1日開催

4.9 職員集会を ハイブリッドで行いました！

はじめに

4月9日(土)、名古屋国際会議場レセプションホールを会場に、2022年度職員集会を開催しました。定員が300名を超える広い会場ですが、当日対面での参加者は辞令交付式等に臨む13名をはじめ、本部役員や担当スタッフ等約70名、140名余は各事業所からのオンライン参加でした。

午前中は理事長挨拶から始まり、自治会連合会・保護者連合会両会長挨拶、2022年度正規採用職員辞令交付式と資格取得者の紹介、ゆたか福祉会2022年度事業計画の報告が行われました。午後は「SDGSを学ぼう」をテーマに、講演と法人の取り組みについての報告、権利擁護・虐待防止の取り組みについての報告が行われました。

以下、内容を紹介します。

◆午前企画

【理事長挨拶】

まず理事長は「3年ぶりに1日の職員集会が開催できたことが、とても嬉しい」と述べられ、またこの2年に亘るコロナ禍での職員の奮闘への感謝と、「引き続き支援と活動への尽力を」と話されました。

次に今回の挨拶は、「新入職員の入職を心から歓迎し、ともにゆたか福祉会をつくっていく決意である」と、「どうしても平和の問題。毎日、ロシアによるウクライナへの侵攻の悲惨な実態を見て、私たちは何ができるか」と心を痛め考える日々。皆さんと共有したいと考えている」と。そして「SDGS研修会への期待の3点から行いたい」と述べられました。

特に平和の問題については「ゆたか福祉会の理念のひとつであり、私たちの仕事、障害者の人たちへの支援は平和なくしてありえない」と語られ、声明文の代読を挟みながら「障害者問題と平和を考える」人類と地球の危機から」と題して、広い視野から熱く語られました。

【辞令交付式】

出席できなかった1名の方を除き、13名が臨まれました。昨年に引き続き全員の方に、初任研修「事前レポート」で書いた内容を、1分間スピーチで紹介して頂きました。

「ゆたか福祉会との出会い」では「大学の友人からアルバイトを奨められて2大学2年生の時のフィールドワーク」、入職を決めたきっかけは「3日間の実習がとても楽しかったから」「実習日程を再調整して頂き、ゆたか



挨拶をいただいた自治会連合会石橋会長と保護者連合会藤田会長



辞令交付式

2022年度 事業計画の報告

のやさしさや思いやり、温かさに触れたから、大切にするワードでは「尊重」をあげた方が一番多く、また働くうえでの大事なキーワードでは「信頼」「チームアプローチ」「相手を知る」「健康第一」など、率直な思いがひとり一人から報告されました。

後藤法人本部長からは、

1. 新型コロナウイルス感染症への対応
2. 第6期総合計画の重点課題の取り組み
3. 職員の労働条件や労働環境の改善
4. 法人財政の状況と課題

2022年4月9日

ロシアのウクライナへの軍事侵攻に対する抗議声明

社会福祉法人ゆたか福祉会
理事長 鈴木 清寛

2022年2月24日、ロシア・プーチンは一方的にウクライナへの軍事進攻を開始しました。あの日から、50日を経て、事態は一層深刻の度を深めています。

ウクライナでは、1千万人を超える人々が戦火を避けて国内外に避難しています。一般市民が避難した劇場や病院、学校などが無差別に攻撃され、おびただしい人々の命が奪われました。平穏に暮らしていた生活が突然脅かされ、死と隣り合わせの恐怖の中にさらされ、障害のある人や高齢者の多くも安全な地域に避難することが出来ず、極限の環境のなかに置かれています。

第2次大戦後に築いてきた、平和への国際ルールも人道上の条約も無視した今回のロシアによる軍事侵攻に強い憤りをもって抗議し、直ちに軍事的な侵攻を中止し平和を取り戻すことを求めます。

また核兵器や生物・化学兵器の使用を示唆する行為は、唯一の被爆国である日本の立場からも、断じて許すことは出来ません。

世界の障害者問題のとりくみにおいて画期となった「国際障害者年行動計画」(1980年1月採択)では、「障害者のうち多数の者は、戦争及び他の形態の暴力の犠牲者であるという事実に想いを至すなら、国際障害者年は世界平和のための諸国民間の継続的で強い協力の必要性を強調する」とされています。まさに、平和であってこそ障害者の命が守られ幸せが実現できることは、我が国と世界の経験の中でも明らかです。

また、障害者権利条約第十条「生命に対する権利」、第十一条「危険な状況及び人道上の緊急事態」からも今回のロシア軍の侵攻は許されるものではありません。

私たちゆたか福祉会は、その理念に「平和」を掲げ取り組みをすすめてきた歴史をもつ法人です。こうした危機的な事態に直面した今こそ、平和への連帯と協同の行動に立ち上がり、その輪を広げていきましょう。

の4点に亘って報告が行われました。
1点目については第1波から第6波の感染者数(第4波は感染者0)や、「業務継続計画(BCP)」に基づく対策の徹底、「新型コロナウイルス感染症」に関するご家族のアンケート」について話されました。
アンケートでは、コロナで困っていることや事業所・法人に対しての要望で「家族との連絡を密にしてほしい。特に感染した場合に孤独になりやすい。職員の力が安心感を与えてくださると思う」という「声」を紹介され、各事業所で改めてアンケート

トを注視し、今後の支援に役立てていくことの大切さを強調されました。
2点目については「地域生活支援拠点まーぶる・まーぶるホームの始動」「福祉村における新しい居住の場の整備と地域との連携構想」「ベトナムと3法人との連携事業の推進」
3点目としては「賃金改善」「定年年齢の見直し」「非正規職員の年次有給休暇取得の変更」「ハラスメントを許さない職場づくり」についての報告がありました。
特にハラスメントについてはこの間実施した職員アンケートに触れられ、

◆午後企画

【講演】

テーマ
SDGsのとりくみを始めるために、
SDGsって何かを学ぼう

講師
一般社団法人SDGs市民社会
ネットワーク理事・事務局長
新田英理子氏

最近1年以内に職場で経験・見聞きした言動があるという回答が約2割あったこと、パワハラ行為者は上司・先輩からが多いが、部下からのものもあり、セクハラについては同僚の多いことが報告されました。またパワハラに比べ、セクハラでは「相談窓口に相談したのがゼロ」であり、相談しにくい傾向があると述べられました。
4点目の法人財政の現状と課題については、福祉事業収入が初めて前年度より減収する見込みであること、原因としてはコロナにおける減収と支出増。具体的には退所などによる利用者の減少に比して、人件費率がこの10年間で10%上昇しており、今後の対応が必要であると結ばれました。

講師からは「SDGs目標達成の取り組みは、正解が一つということではなく、目標に向かって個人や団体が自由に豊かに発想して旺盛に取り組むことが大切」「目標達成期限まであと8年、科学的に証明されてきている地球の気候変動や、社会における格差や不正がコロナにより顕在化していることを受け、産業も人々の生活も環境もここ20年で大変革が起こっていく。あきらめずに今からはじめて大丈夫」「このままでは地球が『続かない』気候変動の課題や、社会の不正の課題は『待ったなし』である認識を持つこと」「社会バランスのSDGsの考え方は、まずベールに自然環境があり、その上に社会関係資本、さらにその上に生産・経済があると捉えることが大事」「自然環境なしではよい社会なし！良い社会なくして経済なし！今は、平和なくしてすべてのことがない」という様々なお話が、心に響きました。
また「SDGs原則の中で『包摂性』誰一人取り残さない」を最も大事と捉えていること」「障害者分野の取り組み『わたしたちのことは私たち抜きで決めないで』からとても学んでいること」を話されました。

最後に「：我々は、貧困を終わらせることに成功する最初の世代になり得る。同様に地球を救う機会を持つ最後の世代かもしれない。(アジェンダ2030・50節より)」を紹介され、「今、我々ができることを頑張りたい」という強い思いを持ちました。

続いて、委員であるグループハウスの荒川所長から「ゆたか福祉会SDGsへの取り組み」と題して報告があり、イメージを深めてもらい、全職員対象のアンケートに臨みました。

ゆたか福祉会SDGs委員会
責任者 熊谷由美子

権利擁護・虐待防止 委員会からの報告

まず後藤法人本部長は、障害者虐待防止法が施行されて今年で10年となること、しかしこの10年、障害者施設における虐待は年々増加の一途をたどっており、2020年度は相談・通報件数と虐待認定件数ともに過去最高となっていること。こうした中で、施設における虐待防止対策も年々強化され、今年度からは施設

従事者への研修の実施や責任者の配置、虐待防止委員会の設置が義務化（これまでは努力義務）されたこと述べられました。

またゆたか福祉会では、2016年度に2件の虐待事例が発生し、名古屋市の「業務改善指導」を受けた経緯もあり、既に各事業所において防止委員会を設けるなどの対応をとっているが、ここ数年はコロナ感染症への対応等も加わり、こうした会議が定期的に持たなくなってきた。事業所もあると話されました。

今後は改めて、会議の定例化や職員の研修を充実させていくこと、新たに身体拘束適正化の推進の取り組みも義務化され、各事業所まかせではなく、法人として適正化指針を作成し、全事業所で統一的な対応ができるように整備をすすめていくことが報告されました。

また「利用者支援に関する家族アンケートの結果」に触れられ、「この調査結果を、今後の事業運営に活かして欲しい」と訴えて、報告を締めくくられました。

アンケート（10年以上）

○事業計画

・人件費率が10年で10%増加したが収入は減少しているということについて、ひとつの事業所の中だけにいると他が見えにくいですが、全事業所の問題だったのだと知った。

・財政面の共有をすることで行政への運動に繋がっていくと思うので、そういった報告も一緒に聞きたかった。

○SDGs

・誰一人取りのこさないという思いは強くあり実現させたいと思うが、格差が広がり続ける中、何処を一点にするかは大きな課題。自分の価値観の転換は必要だが、時間がかかると思う。

○権利擁護・虐待防止

・「言いたいことがあっても、なかなか言えない」雰囲気はまだまだあるという実態があるということに、私たちは細心の配慮をしていくことが必要だと思う。

・現場の人員体制がどこも厳しくなっている中、障害の重度化も伴い職員への負担が増えている。余裕のない日々の継続の中に虐待・権利侵害が潜んでいる。そのケアを考えて欲しい。

職員集会を終えて

2020年4月以降、様々な手立てを講じながらの開催となっている職員集会・研修です。

3年未満の職員からは、「研修等の機会が復活するのはとても嬉しい」「ベトナムに行って交流や研修をすることができなかったのが、今年のはした」「ゆたか福祉会の収入や人件費など、普段聞くことのないお話だったので、聞くことができてよかった」「新設されたまーぶるの内部を見たかった」等の「声」が寄せられました。

ここ数年、当日の研修参加者は全体の約1/3という状況です。YouTubeで配信されている当日の録画や事前資料を活用し、参加できなかった事業所・職員はもちろん、各事業所が改めて学び直し、今後の事業運営に活かしていただくことを期待します。

文責 研修部長 向幸子



2022 年度

正規採用職員紹介



ゆたか作業所
まつした じゅんや
松下 隼也

☺ 映画鑑賞、旅行、
綺麗な景色を見ること

大学4年生の就職活動中に、ゆたか福祉会と出会いました。実習中に職員さんと仲間の皆さんが優しく接してくださり、働く場としてにぎやかで良い雰囲気を感じ「ここで働きたい」と思った事がとても印象に残っています。

まだまだ未熟者で、分からない事だらけだと思いますが、信頼関係を重視し、周りの職員さんや仲間の方とコミュニケーションを取り、仲間の皆さんが楽しく働けるような支援を頑張りたいと思っています。

今年度も14名のみなさんが、正規採用職員として新たなスタートをしました。

初任研修では、ゆたか福祉会の経営理念「わたしたちの大切にしているもの」尊重・参加・共同・運動・平和からひとつ選び、それぞれの思いを語り合いました。一番多かったのは「尊重」。迎える先輩職員も含め、初心を忘れず、共に育ちあえる職場づくりをすすめていきましょう。

☺ 趣味・好きなことをお聞きしました。



みのり共同作業所
すがた あきこ
菅田 亜希子

☺ カラオケ、食べること

これまで福祉を専門的に学んだ事はほとんどありませんが、「誰かのために働きたい」という思いで、パートとして働いてきました。「もう一步踏み込んだ仕事が見たい」と思い、今年度よりエリア採用として入社することになりました。

知識不足な所も多いですが、今までの経験を元に、周りに助けをもらいながら、自分自身も周りの人を支えられる存在になっていきたいです。



みのり共同作業所
やまもと しょうま
山本 祥真

☺ 映画鑑賞、筋トレ、
おいしい物を食べること

私はみのり共同作業所でアルバイトとして、2年間働いてきました。そのアルバイトを通して、現場で働いている仲間達や職員の方々の生き活きと作業をしている様子や、目標に向かって団結して作業に取り組む姿を見て「私もこの職場で働きたい」と考えました。

まだまだ力不足ではありますが、日々の仲間達の支援の中での一つひとつの気づきや、考えたことを大切にしてい、相手の立場に立って相手を尊重することができる職員になりたいと考えています。



リサイクル港作業所
きしの つばさ
岸野 翼

☺ 卓球、ドライブ

ゆたか福祉会との出会いは昨年の3月頃でした。企業説明会に参加させていただき、丁寧にわかりやすい説明をしていただいたこと。実際に施設で実習をさせていただき、障害のある方と関わり支援をする中で、支援のやりがいや楽しさを感じたことがきっかけとなり、入職を決めました。

まだまだわからないことだらけの状態ですが、仲間の方の気持ちに寄り添うことや、「仲間の方と共に」という思いを大切に、精一杯頑張っていきたいと思っています。



ゆたか希望の家
やました やすき
山下 恭生

☺ 野球観戦

ゆたか福祉会との出会いは、大学の講義でゆたか福祉会を取り上げたことがあり、興味を持ち見学会に参加したことがきっかけでした。

3日間の実習では、仲間の皆さんのとても生き生きとした表情が印象的でした。仲間の笑顔を見て「私も力になりたい」と思い、ゆたか福祉会への入職を決めました。

先輩方を見習って、仲間がより良い生活ができるよう、これから学んでいきたいです。



ゆたか生活支援事業所みなみ
かみむら あみ
上村 彩水

☺ 音楽鑑賞、ギター、カメラ

ゆたか福祉会に興味を持ったのは就職活動中でした。コロナ禍で対面での説明会を開催することが難しい状況下でも「できない」で終わらせるのではなく、どうすれば対面で説明会を行うことができるのかを工夫する法人の未来志向の考えに深く共感し、「この場所で働きたい」と思ったことがきっかけです。

わからないことや至らない点も多いですが、先輩職員の方から知識や技術を吸収し、仲間のみなさんの生活がより良いものとなるよう、お手伝いできたらと思います。



ゆたか生活支援事業所みなみ
おおくり りゅうたろう
大久利 龍太郎

☺ 推しごと (juice = juice 工藤由愛)、PayPay ボーナスを貯めること、野球、友人と電話、車やお風呂で歌うこと etc.

ゆたか福祉会との出会いは、友人に声を掛けてもらい、グループホームエールのアルバイトを始めたことがきっかけです。介護経験・知識は全くありませんでしたが、仲間や職員の皆さんが優しく受け入れて下さり、働く中で「介護について深く学んでみたい」という思いが強くなりました。

これから、大変なこと、辛いことがあると思いますが、皆さんから様々なことを吸収し、精一杯頑張りたいと思います。



ゆたか生活支援事業所あつた
こばやし あな
小林 菜々

☺ 作品鑑賞 (アニメ・ドラマ・漫画)、バレーボール

ゆたか福祉会との出会いは、大学2年時のフィールドワークです。なかまの「皆がいるから仕事が楽しい」という声や、生き活きとしている姿、なかまの思いに寄り添う職員の姿勢に魅力を感じ、入職を決めました。

今後は、なかまのゆたかな暮らしを共に考え、生活の楽しみや選択肢を広げていけるよう日々の関わりを大切にしていきたいです。まだまだ未熟ではありますが、職員としても人としても成長できるよう励みたいと思います。



ゆたか生活支援事業所みなみ
はしもと みなみ
橋本 実波

☺ 海獣、猫の動画を見ること、ラーメン、カフェ巡り

ゆたか福祉会の就職試験の3日間の実習がとても楽しく印象的であったことや、ひとり一人が生き生きと働き生活している姿を見て「私も共に働きたい」と思い、入職を決めました。

大学で福祉を専門的に学んでいないため「しっかりできるだろうか」と不安に思うことも多くありますが、現場での経験を一つ一つ積んで学んでいきたいと思えます。仲間が生き活きと自分らしい暮らしを継続していけるように、精一杯頑張っていきたいと思えます。



みらいろ
こしやま わかば
越山 和花葉

☺ 歌を歌うこと、ドラマを見ること

大学3年生の時に、施設実習で初めて障がいのある方に会いました。仲間の笑顔や「楽しい」という声が印象に残り「私も働きたい、力になりたい」と思い、入職を決めました。仲間が自分らしくいられるように、笑顔を忘れず寄り添う支援を心がけていきたいです。

福祉の知識が不足しており、不安が大きいです。先輩職員の方や仲間に教えて頂きながら、皆さんとより良い関係を築き、そしてより良い支援を目指して頑張りたいです。



ゆたか生活支援事業所かさでら
すずき みさき
鈴木 美沙

☺ 音楽鑑賞、舞台の観劇

ゆたか福祉会との出会いは就職活動中の説明会で、法人や各施設の説明をして頂いた職員の方が明るく、柔らかな物腰が印象的だったのと、頂いた資料に載っていた利用者である仲間の方の笑顔が素敵で、職場の雰囲気が良いと感じ入職を決めました。

仲間ひとり一人が自分らしく生活でき、仲間の笑顔あふれるホームになるように仲間や先輩職員から学び、励みたいと思います。至らない点があると思いますが、ご指導よろしくお願ひします。



あかつき共同作業所
おぎ よしこ
尾崎 佳子

☺ 料理、読書

「新しいことに挑戦したい」という思いが、ゆたか福祉会で働くきっかけとなりました。未経験の私を優しく、時には厳しく、育ててくれた仲間たちと職員の皆さんのおかげで、仲間たちと過ごした時間は、自身の成長にも繋がっていると感じています。

今年度からエリア採用職員となります。これまでの経験や知識にこだわらず、視野を広くもち、初任研修で学んだ「よく見る。よく聴く。よくする」に視点をのいた支援を心がけていきたいと思っています。



ワークセンターフレンズ星崎
やまだ まみ
山田 麻未

☺ 読書、子どもの寝顔を眺めること

ヘルパーの資格をゆたか福祉会で取得させていただいたときに、フレンズ星崎を紹介していただき、パート職員として6年がたちました。

昨年、介護福祉士の資格も取得し「もっと自分のできることをしていきたい」と思い、エリア職員になることを決意し入社しました。資格を活かしながら、仲間とともに喜びを分かち合い、共に歩んでいける職員を目指していきたいと思っています。



ゆたか生活支援事業所尾張 ^{たかじょう こうじ}
高城 光司 ☺ スポーツ全般（特にサッカー）

あかつき作業所とケアホーム徳重の二足の草鞋を半年程経験し、今は徳重ホームも3年が過ぎました。入社のはじめは東日本大震災から感じる事があり「支援に携わりたい」とずっと思っていました。あかつき共同作業所を見つけた時、急いで電話した事を覚えています。

未経験の私も早3年。支援へ向き合い、色々な事を仲間・仲間の御両親・職員の皆さんに助けられながら、今の自分が有ると思っています。これからも宜しくお願い致します。

\\ 新所長紹介 /

※昨年度、「所長代行」として紹介した石田誠樹さんは、今年度から「ゆたか生活支援事業所みどり」の所長に任命されました。



リサイクルみなみ作業所
おの かおり
大野 歌織

秀でた技能や能力はありませんが、周りの方々になるべく迷惑をかけないよう、根気強く仕事を覚えていきたいと思っています。

皆さんが積極的に自分の可能性にチャレンジし、働く喜びを実感し、長く働き続けられるように、力を尽くしたいです。福祉の現場で働いてきて、みんな一生懸命生きてると実感してきました。誰一人として、他者から生きていく事を脅かされない世の中が早く来るように、微力でも取り組んでいく事が大切だと思っています。



トライズ
にしはら たかし
西原 正

2013年に“資源回収みなみ”に入職し、後に“トライズ”へと名称が変わり、合わせて9年と1カ月が経過しました。まさかの所長という大役を任せられ、戸惑いや不安を感じながら、時間と心の余裕がまだまだありません。周りの方々に教わりながら、施設の成長と自身の成長にも繋がっていききたいと思っています。

いろいろと至らないところがございますが、皆様のご支援を頂きながら職員一丸となって、仲間が安全で安心に笑顔で働けるように努めたいと思っております。宜しくお願い致します。



デイサービスなぐら ^{ながい のりあき}
永井 規照

初めての介護の現場で責任も大きく変わりましたが、頼もしく優しい職員の皆さんに支えられ、感謝しています。デイサービスのご利用者様にとっては「ひよっこ」で、45歳を過ぎて「かわいいお兄ちゃん」と呼ばれる日が来るとは思いませんでした。

福祉村が地域づくりに向けた取り組みを進める時に、中心的な役割を担う事業所に配属されたことにもご縁を感じています。「今日もデイに来て楽しかったよ」と言っていただけよう努めます。

\\新副所長紹介\\



みのり共同作業所
さたけ いくや
佐竹 郁哉

まずは現場のなかまの皆さん、職員さんとともに一から作業に取り組む中で、それぞれの方々の視点を学びながら、相互の理解を深めていければと思います。

またこれまでの経験を活かして「自分にできることは何なのか？」を考えていきたいです。今まで関わってきた皆さんに感謝しつつ、心機一転頑張ります。



ふれあい共同作業所
おおいし まさお
大石 雅生

今年度から副所長をつとめさせていただくこととなり、例年の年度始めよりも一層緊張をしております。今後もまずは”なかまの方々と共に楽しむ”ことや、”なかまの想い”を大切にすること等、私が考えるこの仕事の原点を改めて意識し、日々の支援にも繋げていきたいと思っております。

またこれまでの経験も活かしながら、なかまの方々やご家族、そして職員の方々からも信頼していただける副所長を目指していきたいと思っております。よろしくお願い致します。



ゆたか生活支援事業所かさでら
しみず りょうすけ
清水 亮如

入社してから仲間、ご家族、職員集団とたくさんの方に支えていただき、様々な事を学ばせていただきました。これまでの経験を活かしながら、仲間と過ごす時間をより大切にしていきたいです。

誰かが躓いた時には、一緒に悩み、考えることの出来る人でありたいと思います。また皆さんと協力しながら、事業所かさでらを盛り上げていきたいです。まだまだ未熟ですが、自分らしさも忘れずに少しずつ成長が出来るよう頑張ります。



法人本部
むらう くみこ
向 久美子

まだ私が企業で働いていた時、ボランティアとしてゆたか福祉会の「ほかほかコンサート」で、親御さん達の合唱団に参加しました。歌に込められた思いに涙し、そしてその時の職員と仲間たちの楽しそうに笑い合う姿に魅了され、その後縁あってパート職員となりました。

法人本部で正規職員として働き 12 年になります。ゆたか福祉会がずっと大切にしてきたものを継承しつつ、皆とともに“これから”をつくっていかれると思っています。



ゆたか生活支援事業所みなみ
おがわ ひろや
小川 大也

入社当時は、慣れない業務を日々こなしていくのに必死で、周りをよく見て仕事することができていませんでした。しかし、8年という経験を経て、今度は自分が“要”として利用者の願いの実現はもちろん、職場の働きやすい環境づくり等を担っていかなければいけない立場になれたのだと、今回の辞令を受けて嬉しく感じました。

グループハウスなぐら・事業所かさでら・事業所みなみでの豊富な経験を武器に頑張っていきたいです!!





3月

日誌

- 2日(水) 広報・ホームページ編集委員会
- 8日(火) 保護者連合会研修会
- 11日(金) 新所長研修
- 14日(月) 事業運営推進会議
- 15日(火) 2022年度正規採用職員初任研修
- 16日(水) 副所長会議
- 17日(木) 2022年度正規採用職員初任研修
- 21日(月) 理事会
- 23日(水) 所長会議
- 24日(木) 2022年度正規採用職員初任研修
- 26日(土) 評議員会
- 28日(月) 2022正規採用職員「援助担当者会議」/
研修部会議
- 29日(火) 権利擁護・虐待防止会議
- 30日(水) 広報・ホームページ編集委員会

一般寄附(4月)

順不同敬称略

社会福祉法人よつ葉の会 理事長 北村 榮章
 社会福祉法人あずま福祉会 理事長 入野 智
 社会福祉法人みなと福祉会 理事長 高木 弘己

賛助会員新規加入者・更新者ご芳名一覧

(4月1日～4月20日手続き分) 順不同敬称略

丸山 了二
 室田 満秋

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございました

表紙の作者紹介

「宇宙の草原」 つゆはし作業所 永田 一雄さん

まねきねこ班で毎日、班の自主製品である「きょうされんふきん」や、様々な内職のお仕事をされています。

長年自治会役員を続けており、今は副会長を務めています。優しく思いやりのある、つゆはしみんの頼れる先輩です。今年度の目標は『給料・ボーナスアップのためにみんなと仕事をがんばる!』です。

絵は毎日、休憩時間に取り組まれ、3日から1週間かけて1枚の絵を完成させます。今回の『宇宙』のように、カラフルで線や丸を多く使った作品が多いです。絵に使うペンやノートは自分のお給料で購入しています!

グッズデザインコンクールには「全国という文字に心が燃えた! 入選した時は本当に嬉しかった」と優しい笑顔で言われました。

編集委員会より

これまでも2018年9月号「ふくしむらはなび」、2019年5月号「宇宙から見て」というタイトルで、作品をお寄せいただいています。

今回の作品テーマは「宇宙の草原」。宇宙シリーズでしょうか。またこれからも素敵な作品をお届けください。スタッフ一同、楽しみにしています。

広報・472号

2022年5月号(2022年5月10日発行)

定価1部100円

法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協定会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協定会費 = 年間1口6,000円、
 賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
 ・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会



新規事業



障害のある皆さんの地域生活をサポートする
地域生活支援拠点事業所まーぶるが開設しました!!

はじめに

この事業は2年前よりプロジェクト会議を立ち上げ、名古屋市へのプレゼンテーションを行い建設が決定しました。昨年9月、ゆたか作業所・法人本部西側に工事が着工し、3月に名古屋市で10か所目になる「地域生活支援拠点事業所まーぶる」が無事完成しました。

4月1日より運営がスタート。4月5日には竣工式と内覧会を行い、法人内外あわせて約70名の皆さんが足を運んで下さいました。「とても広くて過ごしやすそうなホームですね」と多くの方々から言葉をかけて頂きました。

まーぶるホームの特徴

この建物の2・3階が「まーぶるホーム」です。身体障害を持つ方が多く入居される為、オールバリアフリーを採用しました。1階には大きな機械浴室を完備し、座って入居事ができる「座浴」と、寝て入居事ができる「寝浴」を設置。建

物の2・3階にも個浴の介護浴槽を完備し、それぞれの障害に合わせて使用することが出来ます。また、事業所の機能として、2階のエレベーターホールを挟み、

2つの短期入所室と1つの体験利用室があり、どんな障害の方でも利用出来るよう介護ベッドも設置しました。定住者とエリアを分け、お互いの生活が守られるよう配慮した構造にもなっています。

4階の多目的室は入居者の日中活動や行事、研修や会議、災害時には福祉避難所として活用できるようになっています。感染症対策としても、感染者や濃厚接触者が発生した場合に活用できるよう可動式の壁を設置し、2つの個室に転用が可能な構造になっています。

明るく、楽しく、いつも笑顔で

4月10日、まず3階に入居する利用者の生活がスタートしました。9月以降、2階で生活する皆さんが入居され、17名が揃う予定です。大半は設楽町にある「グ



ループハウスなぐら」から名古屋へ生活の場を移行される方々です。また今回、高齢化や障害の重度化により、既存のグループホームでの生活が送りにくくなった4名の方が、生活の場を移行されることになりました。入所施設から生活を移された皆さんは、これまで利用出来なかつたヘルパー利用や、日中活動施設への通所がスタートします。

初めての事づくめの生活ですが、新しい生活に慣れようと皆さん一生懸命です。まーぶるでの生活が、明るく、楽しく、いつも笑顔で過ごして頂けるよう、職員集団で一丸となって、支援を進めていきたいと思っています。拠点事業所としても、地域の多くの方々を足運んで頂けるよう、一層努力していきたいと思えます。

ゆたか生活支援事業所みなみ 西原恵美